

会員の広場



スキー、4度目の出会い

堀田 充（東京）

4月上旬、カナダのウイスラー・ブラッコムスキー場で今シーズンの滑り納めをしました。同好の士は、千葉県柏市にある「ダイヤモンドスキークラブ」の皆さんです。会員は100名、平均年齢は70歳を超え、80歳を超える方もいらっしやいます。当クラブではメンバーの喜寿を毎年スキー場で祝っています。今年も皆がシャンパンを構えて待っている中、喜寿を迎

えた4名の仲間が見事なフォーメーションを組んで滑り降りてきました。本当に元氣一杯の後期高齢者です。「スキーは重力に逆らわず滑り降りればよいので、体力はいらない」と事もなげですが、実は夏場も山登りをしたりスポーツジムに通ったりと、生涯スキーヤーを目指して努力を続けているのです。

私は北海道生まれですので、スキーは物心のついたころからの遊びでした。ただそれも中学までで、高校・大学時代は歳相応にもっと楽しいことがあって、スキーは見向きもしなくなりました。次にスキーと向き合ったのは就職してからで、東京の出身者が夢になつていのに触発され、カッコよく滑ることが目標となりました。今でもその傾向が残っているかもしれませんが、北海道のスキーヤーはフォームにこだわらず、整備されていない斜面でもとにかく滑り降りることを重視する時代だったので。

学生になるくらいまで、お正月に家族スキーに行く程度でした。3度目のスキーへの熱中は、仙台勤務となつたときです。蔵王が近く絶好のスキー環境でしたし、熱心に教えてくれる指導員に巡り合うことができたのです。その頃、スキー板に革命的变化が起きていました。「カービングスキー」の出現です。トップとテールが極端に幅広で、長さも身長以下の板です。この板は、膝から下の動作ではなく、股関節を意識して体全体を使って操作します。そうすることで、体力や筋力に頼らなくとも滑ることができ、これならまだ続けられると喜んだものです。加えて、板の特性によりずれの少ない高速ターンが可能となり、私の場合も以前よりはるかにスピードアップして、スキーが若返りました。

良いことづくめですが、技術的には従来とは相当違いがあり、感覚が掴めるまで丸々一シーズンかかったように思います。この話は、ゴルフアーにはよくおわかりでしょう。チタンのデカヘッドにより、誰もがバ

ーシモン時代より飛距離を伸ばしています。ただ、人により技術の転換は大変で、パーシモンの名手がチタンドライバーに手こずった事例は、特にトッププロに多数ありました。中嶋常幸プロが苦労の末、新しい道具に適応したケースはよく知られています。

さて、4回目のスキーへの目覚めは、仙台を離れて8年目に訪れました。スキーの醍醐味は自然のなかで無心に戯れることです。とはいえ一人ではなかなか再開する気持ちになれませんでした。そんなとき偶然、柏市の広報で「ダイヤモンドスキークラブ」のシニア向け行事を見かけたのです。ゲレンデで一緒に行動を共にする仲間がいると、スキーの楽しみは倍増します。おかげで、スキーがまた人生の一部となりました。昨年からはスキーの革命はカービングからロッカースキーへと進んでいます。高齢者にますます操作の容易な道具です。何十年もブランクのある経済倶楽部会員の皆様、大丈夫、スキーへの再挑戦をお勧めいたします。